

国際スポーツ雪かき選手権

北海道小樽市 一般社団法人日本スポーツ雪かき連盟

はじめに

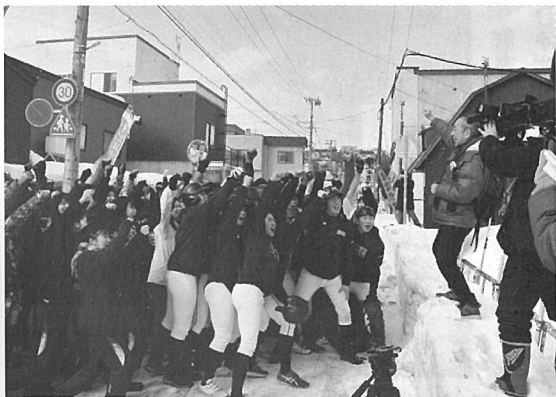
国際スポーツ雪かき選手権（以下、「スポーツ」と呼ぶ）は、高齢化による除雪問題の解決と体験型コンテンツによる観光振興を目的として小樽市において2014年から開催され、2020年で7回目を迎えた。第6回からは、地域住民と参加者との交流による地域コミュニティの活性化をテーマに実施され、今年度は、市民との協働による雪対策を掲げる小樽市との連携を見据えた大会として位置づけた。

背景と目的

小樽市は年間の降雪量が676cm、最深積雪が122cm（気象庁発表…平均値）を記録す

る豪雪地であるにも関わらず、高齢化率が40%に迫るとともに、少子化が進み、冬期間の生活を確保するための雪かきの担い手不足が深刻化している。しかも、天狗山から石狩湾にかけて急傾斜の地形にも関わらず、明治から昭和初期にかけて急激に人口が増えたため、港から山に向かって次々と住宅が建設され、密集しているのが特徴だ。一転して、高度成長期の終わりから始まった急激な人口減少に伴い、空き家が増え、坂の上に高齢者が取り残されたように生活しているのが現状だ。このように様々な要因が、雪かきの担い手確保を困難にしていると考えられる。

しかし、そもそも雪かきは単純重労働のため、担い手確保に苦勞するのは当然だ。この現状を逆転の発想で打開するため、一般社団法人



参加者が一斉に「雪かきはスポーツだ！」と発声して競技を開始

日本スポーツ雪かき連盟では、「スポーツの力で除雪問題を解決する」を活動理念として、雪



かきにルールを策定し、チームで楽しく雪かきで競い合えるよう「スポーツ雪かき」を考案した。近年、社会課題を解決するために生まれた



奮闘する北照高校野球部チーム



スポ雪のピブスを着た大学生スタッフが中心となって大会を運営

スポーツは、ソーシャルスポーツと呼ばれている。一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブが発案した「スポーツGOMI拾い」が発祥だ。

「スポーツ雪かき」は、一人暮らしの高齢者が多い住宅街を競技エリアとして定め、各チームが担当する生活路を実際に雪かきする行為そのものを競技として、ルールを定め、ポイント化しているのが特徴だ。スポーツの醍醐味である勝利した時の喜び、負けた時の悔しさや、高齢者から感謝された時の満足感や達成感など、日頃の雪かきでは味わえない感動がここにはある。「スポーツ雪かき」を通じて、地域内外の参加者に小樽市の現状を知ってもらい雪かきの担い手を増やすことが目的であり、小樽市以外にも担い手確保に苦勞する地域への普及も視野に入れた活動を行っている。

第7回国際スポーツ雪かき選手権の開催報告

- 開催日…令和2年2月15日(日)
- 会場…①開会式・昼食・表彰式 小樽市立北陵中学校、②競技 小樽市石山町
- 参加チーム…16チーム78名
- 主な参加者…北陵中学校生、小樽北照高校生、小樽潮陵高校生、小樽未来創造高校生、小樽市役所、小樽北陵中学校PTA、手宮中央

小学校PTA、北海道観光振興機構、経済産業省北海道経済産業局など、小樽市内ばかりではなく、札幌市からも参加。

- 社会人スタッフ…14名(小樽市、札幌市)
- 学生スタッフ…28名(札幌学院大学、北海道科学大学、小樽商科大学、小樽桜陽高校)
- 協力…手宮連合町会の皆さま(地域住民への告知)、小樽市立北陵中学校(体育館の解放)、石山町の皆さま(スコップ・スノーカートの貸し出し)

(1)開会式

ご来賓の挨拶、優勝旗返還、北陵中学校生徒による選手宣誓のあと、参加者スタッフ全員で準備体操として「雪かき体操」を行った。

(2)雪かき競技

参加者は北陵中学校から徒歩約10分にある石山町に移動。競技審判を務める学生スタッフの誘導に従って、担当するコースに移動。制限時間20分間、生活路を拡張する「スポーツ雪かき」を実施した。

(3)排雪

スポーツ雪かきで、かき出された雪は、参加者、スタッフ、住民総出でダンブカーが通れる広い道路に集められ、排雪業者によって集積場に移送された。

(4)昼食

すべての作業終了後、参加者は再び北陵中学校体育館に移動。できたてのあんかけ焼きそば



作業終了後には北稜中学校体育館で、豚汁などを食べながら交流を深めた

と豚汁を食べながら交流を深めていた。
(5)表彰式

一般の部では北海道観光振興機構によるチーム「キュンちゃん」が優勝。中学の部ではメンバー全員が女生徒によるチーム「雪かきがち勢」が優勝。高校の部では甲子園常連校である「北照高等学校野球部2」が優勝した。

成果

地域コミュニティの活性化を重点目標として2年目の大会となった。前年と同じ石山町を会場としたこともあり、住民への周知や協力は前年以上にスムーズに行うことができたと感じている。最も複雑で重要なスポーツのオペレーションは、住民からの雪かき道具の借用と返却であ

る。今回は前年の倍以上の学生が運営に携わってくれたため、道具の破損や紛失、返却先不明などのトラブルがなく行うことができた。大学生がボランティア活動を通じて、住民との交流でコミュニケーション力を身に付けることや、自ら考え行動する力、チームの一員として共通の目標を達成する力など、社会人になった後にも役立つスキルを身に付けてもらうことも目的としている。このように、スポーツを通じて、地域の課題を解決しようとするリーダーを育てることも力を注いでいる。

前年の参加者や学校関係者へのヒアリングから、高校中学生の参加費を今回から無料にした。その結果、中学生は19名から37名に、高校生は9名から22名に参加者が増加した。スポーツは、地元の中学生、高校生を協働に参加してもらうことを目標に掲げている。今回は、若者の参加拡大に手応えを感じた大会であった。

身の回りにある課題に、スポーツのエッセンスを取り込むことで、みんなで楽しく解決できることを知って欲しい。若いうちから想像力を働かせ、アイデアを出し、行動することで、地域の課題を解決しようとするリーダーが誕生すると確信している。

今後の取り組み

スポーツは、今回で地域コミュニティの活性化



第7回国際スポーツ雪かき選手権集合写真

度は、今年度雪対策基本計画を策定する小樽市との連携を強化する。地域の市道の排雪計画と連動した実施計画の策定、住民が主体となって実施する除排雪事業の活用、市内各町内会や学校へのプロモーション活動等において連携を図っていきたい。

(二) 一般社団法人日本スポーツ雪かき連盟

代表理事 松代弘之

を目的としたイベントとして理想形に近づいた。町内会、学校、PTAの地域の主要組織に、学生・社会人ボランティア、除雪事業者が地域に入り込み一体となって運営することで、小樽市内のみならず、雪で困っている全国の地域でも開催が可能である。来年